

目次

「図書館応援団」のひとり言
図書館の充実について
資料紹介「化学屋さんが落語を聞けば」
＊ 「ウルマン工業化学百科事典」
幸福を知る才能
図書館の利用について
鳥取ライオンズクラブ寄贈図書
1998年外国雑誌情報
ミニシリーズ情報検索コーナー その4
平成10年度図書館カレンダー（その1）

「図書館応援団」のひとり言

高 阪 一 治

図書館、わけても大学図書館を日々利用し、これに強い関心を持っている者にとって、平成9年7月4日の朝日新聞に載った「悩み多き大学図書館－大阪大学の場合－」（林 毅・大阪大学附属図書館長・法学部教授執筆）という記事は、ショックを与えた。まさしく「古く狭く人手もなく」ということが感情を抑えて淡々と綴られていただけに、かえって筆者の苦渋に充ちた心境が押し量られた。わが鳥取大学と大学の規模や所蔵内容・点数こそ違えど、大阪大学の場合も事情は似たりよったりで、予算措置が待たれる状態にあることが、十分に読みとれた。国立国会図書館の関西館が京都府下に2002年に開館予定だという、慶ばしい事柄もあるものの、近年、図書館をめぐる話には、概して暗いものが多い。

予算がない事がその元気でない大きな要因であるが、電算化については省力化(!?), 高度情報化に対応した形で徐々に進められているものの、これを維持、運営、促進する、人に対するケアや、図書館業務の高度専門化に対応する人材育成は、定員削減というボディブローを受け続けて、いつこうに進んでいない状況からすると、人の問題も大きい

といえる。その結果、新規加入やトレードのないどこかの野球球団ではないが、サービスの低下をきたさないように、いきおい現有勢力のアップを図らねばならず、館員には八面六臂の活躍が期待されるものの、そう長続きするものではないから、意に反して、労働条件の悪化(ちよつと言いつ過ぎか)とサービスの低下を招くことになる。

さてこうした悪条件にも係わらず、本学附属図書館本館では、学生(大学院生を含む)・教官は学習や調査研究に勤しみ、図書館員は日々、館内業務に励んで、出来る限りのサービスに努めている、というのが現状である。全学的には、図書館委員会が組織され、支援体制をとっている。

ところで、本図書館をめぐる焦眉の問題は新図書館の実現であり、これには全学的な支援が欠かせない。この本館がいまのキャンパスに建設されたのは昭和41年のことであり(増築部分を除く)、種々の理由から、根本的な見直しを迫られている。そこで、全学的には、鳥取大学新図書館構想検討委員会(小



田委員長。筆者もその一人)が組織され、平成7年1月に学長に対して「図書館機能の強化・高度化について－鳥取大学新図書館構想－」と題する答申が提出された。たんに狭い、古いからというばかりでなく、今後のあるべき大学図書館像をにらんで、そうしたものが鳥取大学に必要なのだという趣旨で、具体的に提言したものである。

現在、この答申を基に概算要求へと歩を進めているが、その作業とともに学内で是非とも必要なことは、一人でも多くの方にこの提言をお読みいただき、活発な意見の交換を図ることである。これまであまり図書館には関心を抱かれなかった方々、また、図書館業務に対して好ましい感情を抱いておられない方々にも、議論に参加していただき、率直なご意見を頂戴することは、図書館および図書館に強い関心を寄せる者にとっても、意味のあることである。たんに図書館の中の風通しをよくするというばかりでなく、関係各位以外の多くの人々にも図書館問題を認知していただくいい機会になると思われる。一時期、盛り上がりを見せたものの、現在、この提言があまり大きな広がりを見せていないことは、誠に残念である。

さて「保存図書館機能を保持・強化しつつ、教育支援機能を充実し、高度情報化に対応することで研究支援機能を飛躍的に発展させることが求められている」(答申より)本学附属図書館には、いうまでもなく大学図書館としての役割が期待されているのであるが、高度情報化・国際化・高齢化・生涯学習という生活環境の変化の中で、本学図書館も今まで以上に他の図書館(大学に限らず)との強い結びつきの中に置かれることになる。では、今日、そもそも図書館にはどのような役割が求められているのだろうか。

こうした疑問については、『知の集積と進化－国立国会図書館開館四〇周年シンポジウムの記録－』(国立国会図書館編、平成元年)が参考になるだろう。シンポジウムが開催されたのは今から10年ばかり前であるから、資料としては少々古いのであるが、今の時点から見ても、今後の図書館を考える上で大いに参考になる基本的な事項は、ここに出そろって

いる、といってもよい。頁数こそ少ないが、中身は大変濃密である。

全体は2部構成で、第1部は「21世紀につなぐ情報の環－知の集積と進化－」と題するパネル・ディスカッション。第2部はラウンドテーブル・ディスカッションの形で、「情報社会とネットワーク－文献情報の普遍的な利用をめざして－」ということが論じられている。このシンポジウムの特色は、第1部の司会と4人のパネラー(司会・下河辺 淳、中村桂子、前田完治、山崎正和、横路孝弘)をはじめとして、第2部では、図書館業務に多少とも関連する、32人もの多岐にわたる人々(図書館、出版・印刷、新聞、通信・情報関連、文部省・経済企画庁・郵政省・通産省、大学教授等)が様々な角度から話題を提供し、議論に参加していることである。この多様性によってこの時点での多くの問題が、例えば、ネットワーク形成ひとつを取り上げても、これだけで充分なのではなく、基盤整備と平日頃のサービスが前提になることなどが、指摘されている。結局、いつの時代にも図書館に求められるのは、その時代に見合った、高度で充分なサービスを利用者に提供する、ということなのであろう。

ちなみに、本書を読んで一番面白かったことは、山崎正和氏のいう2種類の情報の指摘であり、自然科学者の中村桂子氏をはじめとする多くの人々がこれを受け入れて、議論を展開したことである。つまり、「情報にかかわる私たちの態度」(山崎氏、以下同じ)には「根本的に2種類」あつて、ひとつは、知ること自体が重要なのではなく、「知って次にどうする」という、「道具としての情報」である。いまひとつは、「味わうとか慈しむ」対象としての情報、楽しみとしての情報である。最初の方で問題になるのは結局「量」なのであつて、量が増えれば、ひとまとめにしたり、「要するに」と括ることのできる、知識の量の問題である。後の方では、「量」でなく、個別性が重要な「質」の問題となる。例としては、広義の芸術などが挙げられる。この後者は前者から見れば、「無駄なこと」なのだが、この無駄な情報こそが、高度情報化を迎えた人間社会にとって真に重要である、という指摘は興味深い。こ

の后者は「いわば文化的な社会資本としての情報」(第2部, 山崎久道氏)と言ひ換えられる。そしてこの区分が「図書館サービスなり情報サービスに影を落としている」(同)として, その取り扱いも二通りに対処しなければならないことが, 述べられている。

本書でも指摘されているように, 今日, 図書館業務は, その多くが館内だけでは処理しきれず, また技術的可能性に相当程度依存せざるをえない状況にある。しかし, その必要性は高いものの, 技術が全てを解決する, というものでもない。これも同時に指摘されていることだが, 情報量が増えれば増えるほど, 他方でいよいよ重要となってくるのは, 「人的ネットワーク」(三輪氏)であり, 「フェイス・トゥ・フェイスで, あるいは握手して, あるいは車座になってという原始的な情報交換」(井尻氏)なのである。人の問題はいつの時代でも無視できないのである。

以上, 勝手に「応援団」を名のり, 本学図書館をめぐってとりとめもないことを綴ってきたが, 今後

とも本学図書館は, 「知る権利を守り, 生存権の文化的側面を保障する」(酒川氏)という公共図書館に課せられた使命に留意しつつ, さらに, 大学図書館としての役割を担ってゆかなくてはならないであろう。それは, 今後の時代の変貌を反映しつつ, 時空を超えて, いつでも他者と応答し得る場を保障するものとして, 人かわれど, これからも着実に歩を進めてゆくことであろう。わたしとしては, できれば「答申」と先の「シンポジウムの記録」などを通じて本学図書館に関心を持っていただくことを願うとともに, 図書館員に対しては, 従来にも増して高度の専門性をもってサービスに努めてもらいたいと, 願うばかりである。この「人類の知の宝庫」(答申より)としての役割を担う本学附属図書館の歩みを, 期待しつつ, 今後とも, 利用者の一員として見守っていきたいと思う。

(教育学部教授 美術理論美術史)

図書館の充実について

田村 智

大学の正門から路なりに歩いてくると自然に図書館の玄関にたどり着く, または前を通り過ぎることになる。三浦団地を構成する教育学部, 工学部, 農学部, 大学院連合農学研究科などの建物及び一般教育の授業と学生センターが置かれる大学教育センター(共通教育棟)に囲まれ, すぐ後側には大学会館の建物がある。キャンパスのなかの要ともいふべき位置にあり, 図書館としての立地環境は最良の場所であると思われる。また, 背後の丘陵には演習林, 果樹園や農場が湖山池にかけて続いており, 図書館の周辺も比較的樹々が豊かでことに秋には青空に赤く映えて美しい。

本号が目に触れるころ大学は新入生を迎え, キャンパスには活気がみなぎり, ガイダンスやオリエンテーションが行われる頃であろう。ところで図書館の蔵書の充実の度合いはどのようなものであろう

か。受験勉強から解放され, これから始まる学生生活の中で大学生にふさわしい知的好奇心や探求心を刺激したり, 啓発するような, また旺盛な読書欲に応えてくれるような図書や読物はどうか。若いときの人との出会いと同じように書物との邂逅も大切で貴重なものであるにちがいないが古典・名著と称される類はどうか。また, 新刊図書や雑誌の備え付け具合はどうか。授業に係った基本的な参考文献は十分であろうか。また, 図書以外の資料はどうか。本学だけに限らないと思われるが現状ははなはだ遠い状況ではないだろうか。

事務室のブックトラックに表紙がはがれかかったり, 表紙を付け替えて修理して出していたが傷んできて利用に耐えられないような図書が何十冊ものせられている。閲覧室書架から降ろしてきたものの一部であろうが, 出版してから30年, 40年以上も経ってい

るものもある。教科書として或いは試験勉強に読まれてきたのであろうか。繰り返し、代々、大勢の学生に読まれて来たにちがいないが、いくら中味が大切ではあるといつてもこんな状態になるまで利用させられる利用者にとっては大変気の毒であるし、館員にとっても心の痛むことがらである。ブックトラックに載せられているのは幸い買い替えることができるタイトルを抜き出したものであり、準備を進めているとのことであつた。購入費の枠の中でこうした区分も含め計画的な購入に努めているが、一層効果的な、選書のあり方、新着情報の提供、利用向上のための手立てなどについて智恵を出し合つてもっと工夫することが求められていよう。「とっとりキャンパス・ライフ：平成6年度学生生活実態調査報告」によると、図書館の利用状況について大学全体で1週間に1-2回程度の利用者が最も多く32.4%である。一方ほとんど利用しないものも23.9%ある。1月に1回程度が30.6%あることと考えると総合的に利用状況はやはり低いと思う。これは利用頻度のみの指数であり、入館者数はその後全体として伸びてはいるが、貸出状況等はかならずしもそうではない。これまでの自己点検評価や外部評価において指摘されている諸課題への取り組みをより具体的・有効なものにするためには利用の実情について問題点や要望などが捉えられるような多面的な調査を行うことが必要であろう。大学図書館は電子図書館化、マルチメディア対応へと変貌しつつあり、情報リテラシーと言われるような新しい学習機能も付与していくことを求められているが、そうした機能の整備・強化を目指すとともに、一方では閲覧室の開架書架にどのような図書を収集し、一定期間しか在学しない学生（留学生も含め）にどのような資料を提供していくかということも重要な課題である。

蔵書の目録情報についての遡及入力や資料そのものの電子化、CD-ROM等の電子媒体情報資料の

ネットワークを介した提供サービスの拡充等、電子図書館的機能の整備課題はいろいろあり、緊急性や重要性を勘案して実現を図っていく必要がある。とりわけ米子地区・鳥取地区をカバーするネットワークサービスは本学における研究支援機能、情報発信基地としての強化・充実の上から是非とも推進が要望されるものである。医学部分館ではすでにYONAGO ACTA MEDICAが全文D.B.として発信されているが、情報検索サービスとしては2次情報誌のMEDLINEとカレントコンテンツの2分野（生命科学、臨床医学）が提供されている主なものであり、前者については医学部分館のサーバシステム、後者については中央館のサーバシステムによつている。特にカレントコンテンツについては自然科学、工学、人文・社会科学を網羅する全分野（7分野）のサービスを目指したい。

『図書館機能の強化・高度化について－鳥取大学新図書館構想－（答申）』（平成7年1月）において附属図書館の今後の課題と将来構想が追求されている。財政の逼迫、学内状況の変化等当時に比して周りの状況は一段と厳しいものがあるが、建物要求を含め構想に盛り込まれている内容や整備課題について、また点検評価での指摘等も含め、改めて必要な事項の見直しの上全体的な方針及び中・長期的な展望の下での整備計画を具体的に取りまとめていくことが当面の課題であり責務であると考えられる。もちろん実現のためには全学的な理解と合意を得、支援と協力をいただくことが不可欠であろう。

図書館は大学の心臓とかシンボルといわれることがある。内実を伴つてそのような図書館になるためにはもとより図書館だけの力ではできない筈がないが、少なくとも図書館自身が魅力のある図書館づくりに精一杯の努力を傾けていかなければならないのはいうまでもないと思う。（事務部長）

～資料紹介～

古橋昭子・山崎昶共著
化学屋さんが落語を聞けば

(ポピュラーサイエンス)

裳華房 1997

この本では、18題の落語がとりあげてあります。この中で最もよく知られているものは、ちくま文庫「滝田ゆう落語劇場」に「蕎麦の羽織」として収録されている「そば清」でしょうか。

第6章「そば清」は、人間を飲み込んだウワバミが赤い草の葉をなめて膨らんだ蛇腹をすつきりさせているのをみた清兵衛が、大好きな蕎麦を腹一杯食べたあとに同じ赤い草をなめると…という話。ここでは、消化酵素についてわかりやすい説明がなされています。

第14章「長屋の花見」は、花見に出かけた貧乏長屋連中の重箱の中身の話。沢庵を卵焼に、大根をかまぼこにみたててのいじましい花見とくれば、お酒の代用は…おわかりでしょうか。この章ではコピー食品の歴史が語ってあります。

その他2, 3紹介しますと、「らくだ」: フグ毒、

「転失気(てんしき)」: 屁、「花色木綿」: 染料など。

各章だては、落語のあらすじ、それに係わる化学的説明、そして類似した噺や演者を紹介している解説で構成されています。

化学的説明は単に化学一色ではなく著者の博識があつかりと披露してあるのですが、落語という話芸が題材だけに全文にユーモアとテンポが心地良く響いていて、読みやすい一冊となっています。

この本、「化学」に分類配架されていますが、化学一辺倒な人には手頃な落語案内書になるでしょう。そして他方、多少なりとも話芸のおもしろさを知っている人はまた違った落語の味わい方があることに気付き、解説中の「(演者) それぞれに持ち味が違うので、聞き比べてみては」のくだりに懐かしくあの名人この噺家の高座を思い浮かべること、請け合います。

ウルマン工業化学百科事典
〈Ullmann's Encyclopedia of Industrial Chemistry〉
第5版について

木地実夫

前号(No.90号)で、本百科事典の全巻が図書館に寄贈されたことと、その内容が簡単に紹介されているが、今回はもう少し詳しく内容を紹介してみよう。

化合物を体系的に分類した大規模なハンドブックとして、古くからグメリンとバイルシュタインがあることは周知の通りである。前者は、1817年、後者は1881年に初版が、いずれもドイツで刊行されている。19世紀末から20世紀初めにかけて、ドイツの科学・技術の研究は、圧倒的な強みをみせていた。化学技術についてみても、たとえば、BASF社は合成染料であるインジゴの工業的製造に成功していたし(1897年)、バイエル社は既に解熱剤のアスピリ

ンを発売しており(1899年)、化学工業は発展の一端をたどっていた。すなわち、ドイツでは「イノベーション(技術革新)の世紀」が既に始まっていたのである。ときのベルリン大学のFritz Ullmann教授(有機反応の一つとして、彼の名を冠したUllmann反応が知られている)は、このように発展する化学工業における製品の製造法、生産量、用途などに関する総合的な情報が、研究や教育に不可欠であることを痛感していた。1913年になれば、BASF社は遂に、人類の悲願ともいべき空中窒素固定、すなわちハーバー・ボッシュ法のアンモニア合成工場をオッパウに建設した。このような情勢の下で、化学工業

に関する総合的な情報の要求が益々高くなり、この要求に応えるべく、遂に1914年に、Ullmann's Enzyklopädie der Technischen Chemieが出版されたのである。

本書は、その後1928-1932年、1951-1970年、1972-1984年と4版まで版を重ね、第5版は従来のドイツ語版と違って、この内容を全世界に向けて発信するという方針で、完全な英語版として1984年から改訂が始まり、最終巻は1996年に出版されて完結したものである。第5版では、従来からの化学関連分野はもちろんのこと、バイオテクノロジー、マイクロエレクトロニクスなどの境界領域も含まれており、ホットな情報を提供すべく、全面改訂が行なわれている。第5版はAシリーズ28巻と、Bシリーズ8巻の合計36巻からなっている。Aシリーズでは、各項目がアルファベット順に並べられている。Bシリーズでは、技術者、管理者、政策担当者などに共通する話題が、Fundamentals of Chemical Engineering, Unit Operations, Chemical Reaction Engineering and Plant Design, Analytical Methods, Process Control Engineering, Environmental Protection and Industrial Safetyのタイトルで、巻別に編集されている。またコンピュータ時代に対応できるように、索引はCD-ROMで探索できるのも特徴の一つである。Aシリーズのアルファベット順の項目を拾い上げてみると、特定の化合物、製品についての記載もあれば、Batteries, Cements, Electroluminescent Materials and Devices, Vitaminesなどの項目もある。また、その取り扱っている内容の深さはいろいろであって、製造法については、どこの特許を使用しているかが記載されているものもある。Enzymesの項は、約200ページにもわたり、約1600の文献が引用されている。

内容の一部を具体的に紹介しよう。今世紀後半からエネルギー資源は、石炭から石油の時代になった。南アフリカ共和国は、Fischer-Tropsch法によって、石炭の間接液化でガソリンを製造している世界で唯一の国である。この製造装置はSasolプラントとって、I～III基

ある。Coal Liquefactionの項目の中の一節で、その装置の性能、生成物の詳細が11ページにわたって紹介されており、興味深い。また、Catalysis and Catalystsの項では、実用性に重点が置かれているために、不均一触媒の記載が主である。均一触媒反応については、Organometallic Compounds and Homogeneous Catalysisの項中のTransition-Metal Catalysisに18ページにわたって解説されている。Ziegler Processの項では、Alfolプロセスによる直鎖高級アルコールの製造法や、オレフィン重合触媒は近い将来メタロセン/MAO系に移行するであろうことなどが記述されている。

Bシリーズをのぞいてみよう。今や、環境保全は地球規模での最大の関心事である。とくに、製造業における総合的な環境保全対策が重要であり、クリーンな代替技術に関心が集まっている。Product-Integrated Environmental Protectionの項(B8)をみると、環境保全のコンセプト、各企業によるケーススタディー、塩ビ、ポリプロピレンなど十数種の化学品の新旧製造プロセスが対比されている。

以上、筆者の興味から主として触媒関係の内容の極く一部を紹介した。「朝の技術は夕べには陳腐化する」といわれる変転のはやい時代である。本書に掲載されている技術は、早晩また新しい技術で置き換えられることは必至である。しかし、第5版の内容をいま読むと新鮮さを感じる。現下の工業技術を概観し、また将来の技術を展望するのに極めて便利である。大いに活用されることをお勧めする。

付記 本学の附属図書館にある第5版の全巻は、Editorial Advisory Boardとして、第5版の出版に参画された日本ケムテックコンサルティング社長の満谷昭夫博士より寄贈されたものである。また、この小文をまとめるに当たり、詳細な資料を提供していただいた。ここに記して深く感謝申し上げる。

(工学部教授 物質工学科)



私の選んだこの一冊

宇野千代 著
幸福を知る才能

(集英社 1989 年)

明 石 由美子

本屋でも図書館でも本棚に並べてある数多くの中から初めて手にする本を、皆さんはどのような理由で選んでいるのだろうか。好きな作家だから、話題になっている本だから、装丁が気に入ったから等々あると思うが、タイトルに興味を引かれて、という事も有りうると思う。私がこの本を手にした理由はまさにこれだった。出版されている事は以前から知っていたのだが、手を伸ばすところまではいかなかった。著者宇野千代という人物に関して殆ど知識をもっておらず、だからその著書も全く読んだことがなかった。恋多き女性、というイメージがあり、内容も恋愛を中心としたものなのだろうと漠然と思っていた。それがある日このタイトルを「幸福になる方法を知る才能の引き出し方」と解釈してしまい、手に取ったのである。

この著書は大きく五つの章から成っており、更にもその中がいくつかの節に分かれている。まず最初にタイトルにもなっている「幸福を知る才能」という章があり、同じ名前前の節がまっ先にきている。私はこの一節だけで充分満足してしまった。手にした時考えていたように才能の引き出し方などは書かれていない。文字通り著者が幸福を知る「才能」を持っている、この才能は育った家庭(本文中の言葉では、ちょっと言葉では言えない一種変わった家)で培われたものである、ということだった。そして一番重要な部分なのだが、「幸福を知る」とは自分にとっての幸福とは何かをわかっているから幸福になる方法を知っている。即ち幸福は本人の望み次第で、自分が不幸が好きな時は不幸だし、幸福が好きな時は幸福である。だからどんな状況でも自分なりの幸福を見つけ出ししていく自信があるという。そのせいかこの後に続くどの章からも暗さは感じられない。どの章も六十代以降に書かれていると思われるのだが、

老いの不安というものは感じられず、まるで十代の頃の未来だけを見詰めている眼差しの様な清々しさがあると思う。「愉しく老いる」という章で、「老い」という言葉から普通は「死」とか消極的なことが浮かぶが、健康の要諦は、死の瞬間まで死ぬことを予想しない、体は心が守るもの、体操や食べ物に気を使うということだけでなく何かを追いかけて行く目的をもち、張り切っている状態である事が健康法だといっている。

更に続く章には著者のお化粧人生が書かれている。何故化粧を始めたのか。それはこれまでの強い心の持ち主に思えた著者にも唯一悲観的になることがあったため、それを隠すためだったという。それは色黒娘であったことである。美の基準は時代によって変わるものだが、著者の十七歳当時の「色黒」は辛い事だったという。まして好きな人が出来れば尚更である。だから毎日、どんなに寒い真冬の朝でも暗い時間から起きて化粧をし、小学校教師の給料の二割を化粧品に費やしたという。ただ、化粧をするようになり周りの人からどんなに綺麗だといわれても、「色黒娘」という自覚を忘れることができず、一生の自惚れ心の手綱の役目をしていたと思う、といっている。何だか少し哀しい気もするが、著者の自分を見失わない強さが表われているようにも思える。

さて次の二つの章では私が著者にもっていたイメージに対する答えのようであった。結婚生活の中で恋愛感情がきれ、友情の世界へと変化していくその時が、ぎりぎりの瞬間なのだそう。この瞬間がくると別れてしまうから、夫婦間の友情の世界は経験がないという。著者は自分の気持ちに忠実なのだと思う。自身の幸福観に絶対の自信をもっているから、友情の世界への入口に行き着くまでの時間を惜気もなく切り捨ててしまえるのではないかと。結婚観、

恋愛観は人それぞれだが、少なくとも著者は安息ということは求めていないようである。このあたりが「恋多き女性」というイメージを抱かせたのかもしれない。

今、様々なことで悩んでいる人はもちろん、幸せ

一杯という人にも読んでみて欲しい。宇野千代氏の幸福観をどう思うだろうか。同感出来る部分があれば、反論したい部分もあるだろう。しかし、その部分こそが各々の幸福観の一端であることは間違いのないと思うからである。 (図書情報係)

図書館の利用について

1. 新入生のみなさんへ

入学おめでとうございます。

みなさんが実り大きな大学生活を送られるために、積極的に図書館を利用することをお勧めします。

ここに図書館の利用について主なことをご案内しますが、詳しくは「図書館利用案内 1998」をご覧ください。

(1) 開館時間

平日	9時～20時 春季、夏季、冬季休業日は、9時～17時
土曜日	10時～17時 春季、夏季、冬季休業日は、閉館
日曜日 及び休日	10時～17時 ただし、定期試験期のみ開館

(2) 休館日

日曜日（定期試験期は除く）

国民の祝日に関する法律に規定する休日（定期試験期間は除く）

本学の記念日（6月1日）

年末年始（12月28日～翌年1月4日）

春季、夏季、冬季休業日の土曜日

その他、臨時に休館するときは掲示等でお知らせします。

(3) 入退館

原則として荷物の持込みは自由ですが、一般常識として図書館ではいけないこと（飲食・大声での雑談など）について、お互いに気を付けましょう。

又、図書資料等を汚損・紛失すると弁償してもらわなければなりませんので、そのようなことのないよう大切に扱って下さい。

(4) 図書館利用者カード

① 交付

学生証に図書館利用者 IDNo. が併記されています。学生証の受取が同時に図書館利用者カードの受取となります。

② 注意すべきこと

図書館利用者カードを又貸ししないで下さい。
このカードのことで時々トラブルが発生してい

ます。

借りている図書を紛失した場合、電算機の貸出記録に記憶された利用者カードの持主が責任を負わねばなりません。

これは、人に利用者カードを貸したり、人から借りたりした結果のトラブルがほとんどです。友人に迷惑を掛けないよう、お互いに気を付けましょう。

そのような事故防止のためにも、利用者カード（学生証）をきちんと管理して下さい。もしも紛失した場合は、再発行を受けた学生証には図書館利用者 ID は入っていませんので、図書館カウンターに申し出て下さい。

(5) 貸出・返却

貸出：学部学生の図書の貸出冊数は5冊まで、大学院生は10冊まで。貸出期間はどちらも14日間です。

返却：期限内にカウンターまで持参して下さい。閉館後ならば図書館玄関脇のブックポストに投函して下さい。

(6) 更新・罰則

更新：図書は1回だけ貸出期間を延長出来ます。

持参してカウンターで手続きして下さい。

ただし、返却期限をオーバーした場合は更新出来ません。

罰則：返却期限をオーバーしますと、ペナルティとしてオーバーした日数分貸出停止になります。

(7) 閲覧

開架閲覧室にある図書・雑誌は、自由に手に取って見ることが出来ます。

一部、郷土資料・AV資料等は資料室で保管していますので利用許可が必要です。1階のカウンターに申し出て下さい。

図書館内で利用した図書・雑誌等資料は元の場所に戻して下さい。

2. 教職員・研究生等のみなさんへ

（新入学の学部学生・大学院生以外の利用者）

(1) 図書館利用者カード

図書館1階のカウンターに交付について申し出て下さい。

利用者カード交付申請書に所定の事項を記入し、提出していただければ利用者カードを発行します。

取扱いの時間は平日の9時～12時、13時～17時です。この時間帯以外は取扱いませんので気を付けて下さい。

(2) 貸出・返却

貸出：①教職員・名誉教授の図書貸出冊数は15冊まで、期間は30日間です。

②研究生・聴講生等は学生に準じた取扱いとなります。図書貸出冊数は5冊まで、期間は14日間です。

返却：新生の項と同様です。

3. レファレンス

この他、貸出・文献複写・資料の探し方等、図書館の利用について、質問がありましたら、気軽に1階カウンターにお尋ね下さい。

4. ご意見・図書等の購入希望

2階ホールに投書箱「図書館の窓」と「購入希望図書記入用紙」を設けていますので、ご意見やご要望をお寄せ下さい。

図書館をより一層充実させるために、利用者のみなさんの声をお待ちしています。

鳥取ライオンズクラブから 図書の寄贈を受けました

平成8年度に引き続き、鳥取ライオンズクラブから図書の寄贈を受けました。

この資料は、本学の外国人留学生のみなさんの充実した学生生活を助成するために寄贈されたものです。

2階の日本紹介コーナーに配架していますので、是非ご利用下さい。以下のリストは書名のABC順です。

鳥取ライオンズクラブ寄贈図書リスト（平成9年度分）

編 著 者	書 名	発行所・発行年	冊数
宮城英男	ある観法：自分癒しのワークブック	新泉社 1996	1
グラバア俊子	ボディー・ワークのすすめ：からだど自己発見	創元社 1988	1
Berque, Augustin	風土の日本（ちくま学芸文庫）	筑摩書房 1992	1
Peitgen, Heinz-Otto et al.	フラクタル・イメージ：理論とプログラミング	シュプリンガー・フェアラーク東京 1990	1
Clavell, James	Gai-Jin : a novel of Japan.	Dell 1993	1
香坂順一	現代中国語辞典	光生館 1982	1
池見西次郎	ヘルス・アート入門：心身セルフ・コントロールの展開	創元社 1994-1995	2
大塚晃志郎	人のからだを、どう治す？：ホリスティック・メディスンの方法	柏樹社 1994	1
石井敏ほか	異文化コミュニケーション：新・国際人への条件 改訂版（有斐閣選書770）	有斐閣 1996	1
上野千鶴子	色と欲（現代の世相1）	小学館 1996	1
近藤 裕	「ジョイ」の法則：楽しく生きるための智慧	春秋社 1994	1
山本 拓	計量経済学（新経済学ライブラリ 12）	サイエンス社 1995	1
有馬朗人ほか	気の世界（東京大学公開講座 50）	東京大学出版会 1990	1
森川那智子	ころがラクになる本	大和書房 1995	1
Eccles, John C., Sir et al.	心は脳を越える：人間存在の不思議	紀伊國屋書店 1989	1
Moyers, Bill D.	こころと治癒力：心身医療最前線	草思社 1994	1
池田克夫	コンピュータで通信はこんなに変わる（情報フロンティアシリーズ 8）	共立出版 1994	1
安居院猛ほか	コンピュータグラフィクス（これからの画像情報シリーズ 5）	昭晃堂 1992	1
村上伸一ほか	マルチメディア通信システム（これからの画像情報シリーズ 1）	昭晃堂 1990	1
池尻正員ほか	マシンビジョン（これからの画像情報シリーズ 4）	昭晃堂 1990	1
坂崎 担	日本画の精神（日本芸術名著選 5）	ベリかん社 1995	1
梅棹忠夫ほか	日本語大辞典：講談社カラー版 第2版	講談社 1995	1
文部省	にほんごをまなぼう	ぎょうせい 1992	1
文部省	日本語を学ぼう 2, 3	ぎょうせい 1993-1995	2
文部省	にほんごをまなぼう：日本語指導教材：教師用指導書	ぎょうせい 1992	1
文部省	日本語を学ぼう：日本語指導教材：教師用指導書2, 3	ぎょうせい 1993-1995	2

にほんごの会	日本語を学ぶ人の辞典：英語・中国語訳つき	新潮社	1995	1
笠井昌昭	日本の文化	ペリかん社	1997	1
竹本忠雄ほか	ニューサイエンスと東洋：橋を架ける人々	誠信書房	1987	1
松平 誠	入浴の解体新書：浮世風呂文化のストラクチャー	小学館	1997	1
伊藤直人	パソコンで学ぶ基礎数学 第2版	森北出版	1991	1
伊藤直人	パソコンで学ぶ初等数学：PC9801シリーズ4	森北出版	1990	1
天野明夫	パソコンで学ぶ数学解析「Yes Man」	森北出版	1990	1
角辻 豊	笑いのちから：ストレス時代の快笑学	家の光協会	1996	1
江崎泰子ほか	「在日」外国人：35カ国100人が語る「日本と私」	晶文社	1988	1
古田紹欽ほか	禅と芸術1, 2 (叢書禅と日本文化1, 2)	ペリかん社	1996-1997	2
田村武志	図解情報通信ネットワークの基礎	共立出版	1995	1
合 計				40

1998 年外国雑誌情報

[新規リスト]

雑 誌 名	国 名	所 属
Accident Analysis & Prevention.	アメリカ	工 社会開発
American Literature.	アメリカ	教 長柄
American Mathematical Monthly.	アメリカ	教 後藤
Animal Conservation.	イギリス	教 鶴崎
ASCE: Journal of Transportation Engineering.	アメリカ	工 社会開発
ASCE: Journal of Structural Engineering.	アメリカ	農 渡辺
Canine Practice.	アメリカ	農 家畜内科
Clothing and Textiles Research Journal.	アメリカ	教 伊藤
Computer and Electronics in Agriculture.	イギリス	農 岩崎
Elle.	フランス	教 門田
English Language and Linguistics.	イギリス	教 福本
Feline Practice.	アメリカ	農 家畜内科
IEEE Transactions on Fuzzy Systems.	アメリカ	工 知能情報
IIE Transactions.	アメリカ	工 社会開発
Interface.	アメリカ	工 社会開発
International Journal of Life Cycle Assessment.	ドイツ	工 社会開発
Journal of Aesthetic Education.	アメリカ	教 寺川
Journal of Group Theory.	アメリカ	教 加藤
Journal of Neuropathology and Experimental Neurology.	アメリカ	農 家畜病理
Journal of Transport Economics and Policy.	イギリス	工 社会開発
Management Science.	アメリカ	工 社会開発
Marine Technology Society Journal.	アメリカ	工 土木工学
Mathematics Magazine (MAA).	アメリカ	教 後藤
Offshore Engineer.	イギリス	工 土木工学
Optics Letters.	アメリカ	工 応用数理

雑 誌 名	国 名	所 属
Physica D. (Nonlinear Phenomena)	オランダ	工 応用数理
Proceedings of the Royal Society of London Ser. A	イギリス	工 応用数理
Scandinavian Journal of Psychology.	スウェーデン	教 土井
Traffic Engineering + Control.	イギリス	工 社会開発
Transportation.	オランダ	工 社会開発
Transportation Planning & Technology.	イギリス	工 社会開発
Transportation Science.	アメリカ	工 社会開発

[中止リスト]

Acta Mathematica.	スウェーデン	教 下村
Acta Mathematica Hungarica.	ハンガリー	教 下村
Agricultural Outlook.	アメリカ	農 永木
American Economic Review.	アメリカ	教 堤
American Journal of Agricultural Economics.	アメリカ	教 堤
Annales Scientifiques de l'Ecole Normale Superieure.	フランス	工 知能情報
Applied Linguistics.	イギリス	教 MAGARTHUR
British Veterinary Journal	イギリス	農 獣医公衆
Bulletin de la Societe Mathematique de France.	フランス	工 知能情報
Canadian Journal of Agricultural Economic.	カナダ	農 永木
Catalysis Letters.	スイス	工 物質工学
Cephalalgia..	ノルウェー	教 田中和
Communications in Mathematical Physics.	アメリカ	工 知能情報
Comptes Rendus des Seandes de l'Academie des Sciendes. Serie 1 Mathematiques.	フランス	工 知能情報
Current mathematical Publications.	アメリカ	工 知能情報
Dance Magazine.	アメリカ	教 佐分利
Developmental Medicine & Child Neurology.	イギリス	教 田中和
Econometrica.	アメリカ	教 堤
Economic Development and Cultural Change.	アメリカ	農 永木
ELT Journal.	イギリス	教 CATES
Essays in Criticism.	イギリス	教 長柄
European Review of Agricultural Economic.	ドイツ	農 永木
Excerpta Medica. Anatomy, Anthropology, and Embryology and History.	オランダ	農 家畜解剖
Field Crop Abstracts.	イギリス	農 中野
Fundamenta Mathematicae.	ポーランド	教 矢部敏
Fuzzy Sets and Systems.	オランダ	工 土木工学
Glia.	アメリカ	農 家畜病理
Graphs and Combinatorics.	ドイツ	教 加藤

雑誌名	国名	所属
Grasslands and Forage Abstracts.	イギリス	農 中野
Index of Current Reserch on Pigs.	イギリス	農 獣医学科
International Journal of American Linguistics.	アメリカ	教 谷守
International Journal of Solids and Structures.	イギリス	工 土木工学
Journal d'Analyse Mathematique.	イスラエル	工 知能情報
Journal of Consumer Studies and Home Economics.	イギリス	教 堤
Journal of Economic Literature.	アメリカ	教 堤
Journal of Economic Perspective.	アメリカ	教 堤
Journal of Geophysical Research. B	アメリカ	工 土木工学
Journal of Graph Theory.	アメリカ	教 加藤
Journal of Intellectual Disability Research.	イギリス	教 田中和
Journal of Micromechanics and Microengineering.	アメリカ	工 応用数理
Lipids.	アメリカ	教 石川行
Mathematical Intelligences.	ドイツ	工 知能情報
Mathematics Gazette.	イギリス	教 矢部敏
Mathematik In der Schule.	ドイツ	教 矢部敏
Medical Education.	イギリス	教 田中和
Microbiolgy.	イギリス	農 家畜微生物
Physical Review E : Statistical Physics, Plasma Fluids, and Related Interdisciplinary Topics.	アメリカ	工 電気電子
Physics of Plasmas.	アメリカ	工 機械工学
PMLA : Publications of Modern Language.	アメリカ	教 福元広
Psychosomatic Medicine.	アメリカ	教 田中和
Pure and Applied Geophysics.	スイス	工 土木工学
Schweizerische Lehrer-Zeitung : SLZ.	スイス	教 遠藤盛
Scottish Literary Journal.	イギリス	教 MACARTHUR
Solid State Ionics.	オランダ	工 物質工学
Topology and Its Applications.	オランダ	教 矢部敏
Topology.	イギリス	教 下村

ミニシリーズ・情報検索コーナーより その4

附属図書館ホームページから情報収集

利用者の皆さん、図書館ホームページから色々な情報が得られることをご存知ですか。今や国内外様々な機関のホームページが作成され、リアルタイムに色々な情報を得ることができる時代となりました。附属図書館も平成8年1月に開設し、平成

9年6月にリニューアルして、鳥取大学の蔵書検索(OPAC検索)をはじめ、利用案内、館報などの情報を提供しています。また、情報収集のために主なサイトにリンクを張り、皆様に少しでも役立ててもらおうページにと考えております。今回は主な項目を

簡単に説明します。

◎情報検索

・鳥取大学 OPAC 検索

鳥取大学の図書、雑誌が検索できます。Web 版での検索ですから簡単です。(前号で紹介)

・学術情報センター情報検索

(NACSIS Webcat)

全国の大学等の図書、雑誌の所蔵状況がわかります。鳥取大学に資料がない場合に確認できます。

・学術情報センター学術雑誌目次速報

データベース

全国の大学等の発行している研究紀要等が検索できます。目次情報を確認し、図書館に所蔵していれば内容も見ることができます。

・書籍総目録検索 (日本書籍出版協会)

現在日本で入手できる本の情報が得られます。約 53 万冊の検索ができます。どんな本が出版されているか確認でき、書店に申し込めば購入できます。

・新刊書籍検索 (図書館流通センター)

1990 年 1 月以降出版された日本の新刊書籍の検索ができます。新しく出版された書籍を検索するのに便利です。

ほかに検索エンジンのリンク等もあります。

◎図書館報、ニュース

図書館報の最新号はもちろん、バックナンバーも見ることができます。

◎鳥取大学研究報告目次

(学術情報センター経由)

鳥取大学発行の研究紀要の目次を見ることができます。(データ入力分のみ)

◎リンクのページ

他大学の図書館、国立国会図書館、学術情報センターなどや、海外の図書館等のホームページにアクセスしたい場合にご覧ください。また、主な新聞社のホームページも見ることができます。

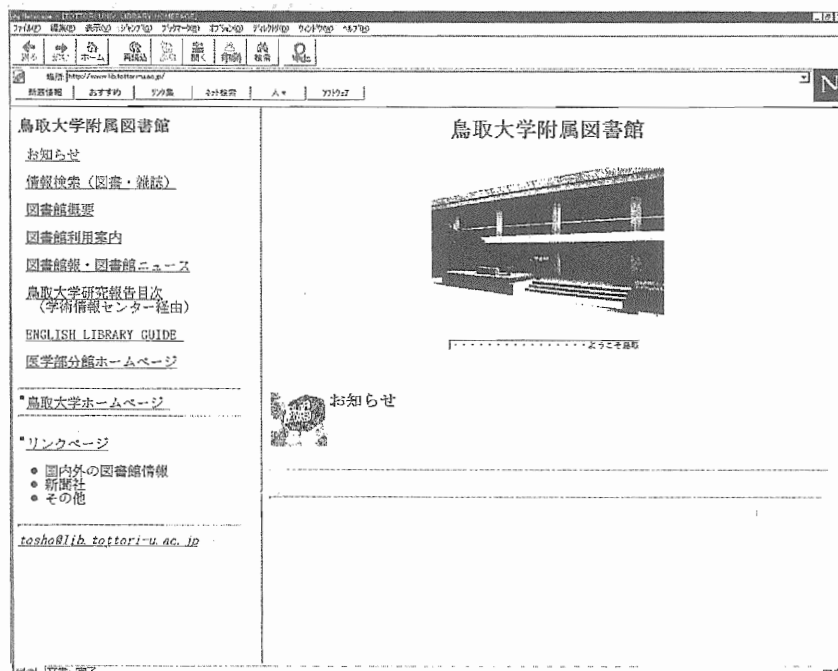
以上インターネット上でほしい情報を色々なサイトから簡単に得られますので、皆さんも大いに利用してください。

なお、図書館ホームページはまだ未熟ですが、皆様に何度でも利用していただけるページを目指して努力いたしますので、ご指導よろしくお願いたします。

図書館ホームページアドレス

http://www.lib.tottori-u.ac.jp

図書館ホームページ



平成10年度図書館カレンダー（その1）

曜日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
日	春季休業日 ~4/8					
月			1 ●鳥取大学 記念日			
火			2			1
水	1		3	1		2
木	2		4	2		3
金	3	1	5	3		4
土	4 ●	2	6	4	1	5 ●
日	5 ●	3 ●憲法記念日	7 ●	5 ●	2 休日開館	6 ●
月	6	4 ●国民の休日	8	6	3	7
火	7	5 ●こどもの日	9	7	4	8
水	8 入学式	6	10	8	5	9
木	9 前期開講	7	11	9	6	10
金	10	8	12	10	7	11
土	11	9	13	11	8 ●	12 ●
日	12 ●	10 ●	14 ●	12 ●	9 ●	13 ●
月	13	11	15	13	10 ●	14
火	14	12	16	14	11 ●	15 ●敬老の日
水	15	13	17	15	12 ●	16
木	16	14	18	16	13 ●	17
金	17	15	19	17	14 ●	18
土	18	16	20	18	15 ●	19 ●
日	19 ●	17 ●	21 ●	19 休日開館	16 ●	20 ●
月	20	18	22	20 休日開館 海の日	17	21
火	21	19	23	21	18	22
水	22	20	24	22 前期定期 試験開始	19	23 ●秋分の日
木	23	21	25	23	20	24
金	24	22	26	24	21	25
土	25	23	27	25	22 ●	26 ●
日	26 ●	24 ●	28 ●	26 休日開館	23 ●	27 ●
月	27	25	29	27	24	28
火	28	26	30 図書整理日	28	25	29
水	29 ●みどりの日	27		29	26	30 図書整理日
木	30 図書整理日	28		30	27	
金		29 図書整理日		31	28	
土		30			29 ●	
日		31 ●			30 ●	
月					31 図書整理日	

(開館時間)

□ 9:00~20:00

□ 10:00~17:00

■ 9:00~17:00

■ 図書整理日

(一般閲覧室・
ブラウジング
コーナーのみ開室)

● 休館日

鳥取大学附属図書館報 第91号 (1998年4月発行)

編集・発行：鳥取大学附属図書館 〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101 ☎0857-31-6728

ホームページアドレス <http://www.lib.tottori-u.ac.jp>